

福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケートの結果概要について

1. 調査の目的

福山市の目指すべき将来像やまちづくりの在り方などについて、市民の意向やニーズを把握し、新たな総合計画に反映するために、「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート」を実施した。

2. 調査の仕様

(1) 調査対象

福山市及び神辺町に住民登録されている20歳以上の男女から3,300人を無作為に抽出。

(2) 調査方法

郵送により調査票を配布・回収。

(3) 調査期間

2005年(平成17年)1月17日(月)～1月31日(月)

2005年(平成17年)7月1日(金)～7月15日(金)(神辺町追加調査)

(4) 調査項目

福山市への定住意向について

- ・ 福山市への定住意向(問1)
- ・ 引越したい理由(問2)

まちづくりに対する関心や福山市らしさなどについて

- ・ まちづくりに対する関心の程度(問3)
- ・ まちづくりに関心がない理由(問4)
- ・ 福山市らしさをイメージするもの(問5)

これまでの10年間の政策体系別評価(行政サービスなどに対する満足度・重要度)

- ・ 行政サービスなどについて良くなったもの、今後特に重要なもの(問6)
- ・ 福山市への住みやすさに対する総合的な満足度(問7)

今後の重点的な取組など(福山市の将来像、重点的に行うべき取組)

- ・ 今後のまちづくりを行う上での将来像や考え方(問8)
- ・ 重点的に行うべき取組(問9)

家庭の情報化, 将来の不安について

- ・ 利用している情報通信機器 (問 10)
- ・ 家庭でのインターネットの利用状況 (問 11)
- ・ 将来に対する不安の程度 (問 12)
- ・ 将来への不安の内容 (問 13)

地域の活動, 市民と行政の役割分担について

- ・ 参加している地域活動 (問 14)
- ・ 市民参加のまちづくりを活発にする方法 (問 15)
- ・ 参加したいまちづくりの内容 (問 16)
- ・ まちづくりへの参加の方法 (問 17)

回答者の属性

居住地域 (問 18), 性別 (問 19), 年齢 (問 20), 世帯構成 (問 21), 職業 (問 22), 通勤・通学先 (問 23), 居住年数 (問 24), 前住地 (問 25)

福山市が目指すべき将来像やまちづくりの在り方などに関する自由意見

(5) 分析方法

アンケート調査の分析方法としては、まず、単純集計を行い、どの選択肢への回答が多いかを把握した。次いで、年齢別等のクロス集計を行い、年齢別等による回答の相違を把握した。

なお、分析においては、回答数に対する各選択肢の割合を明確にする必要があることから、原則として、無回答を除く回答を母数とした割合を算出した。

ただし、問 6 の「行政サービスなどに対する満足度・重要度」については、2000 年 (平成 12 年) 調査と比較するために、本調査においても無回答を含めた全体を母数として回答の割合を算出した。

(6) 回収率

発送数	3,300 票
回収数	1,515 票
白票	4 票
有効回収数	1,511 票
有効回収率	45.8%

3. 調査結果の概要

(1) 福山市への定住意向について

- ・ 「これからも福山市に住み続けたい」とする回答者が8割を超える。
- ・ 引越したいとする回答者に対してその理由を質問したところ、「福祉や医療サービスが現在よりも充実した地域に住みたいから」が約2割で最も多い。

(2) まちづくりに対する関心や福山市らしさなどについて

まちづくりに対する関心

- ・ 「関心がある」「少し関心がある」を合わせて8割弱に達する。
- ・ まちづくりに関心がないとする回答者では、「市民の意見が反映されにくいと思うため」(35.7%)や「まちづくりを考える機会がないため」(26.2%)などの理由が多い。

福山市らしさ

- ・ 「ばら・ばら祭」という意見が約6割で最も多く、次いで、「鞆の浦・鯛網」(31.6%)、「福山城・城下町」(25.3%)が2割を超え、その他、「気候のよさ」(16.8%)、「鉄・製鉄所」(12.5%)、「芦田川」(11.3%)などが比較的多い。

(3) これまでの10年間の政策体系別評価(行政サービスなどに対する満足度・重要度)

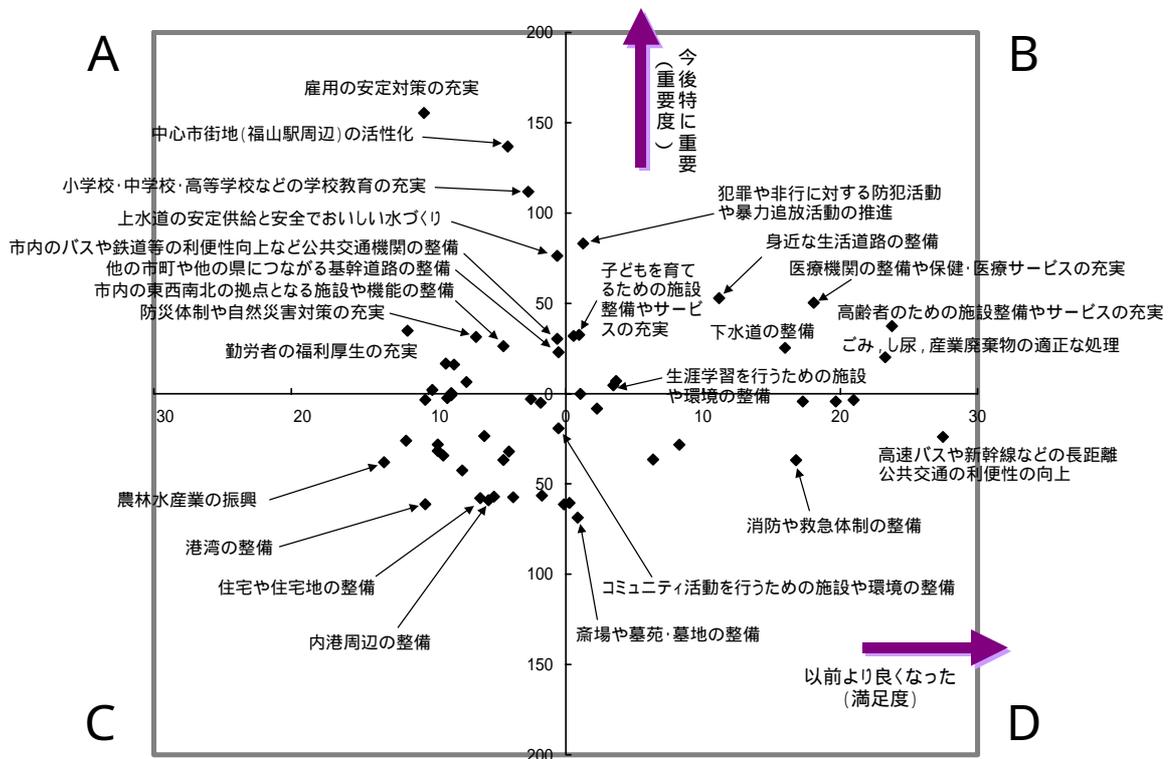
政策体系別に見た「以前より良くなったもの」と「今後重要なもの」

- ・ 施策の柱ごとに、「以前より良くなったもの」と「今後重要なもの」として最も割合の高かったものを抽出すれば以下のとおり。

施策の柱	以前より良くなったもの	今後重要なもの
心ふれあい健やかに安心して暮らせるまち	高齢者のための施設整備やサービスの充実	医療機関の整備や保健・医療サービスの充実
自然とともに生きるまち	ごみ、し尿、産業廃棄物の適正な処理	河川や水路、ため池などの水質浄化
コミュニティの形成・快適な生活環境の整備	市の広報などによる市民への情報提供の充実	上水道の安定供給と安全でおいしい水づくり
安全な生活環境の確保	消防や救急体制の整備	犯罪や非行に対する防犯活動や暴力追放活動の推進
個性を育む教育・文化のまち	文化活動を行うための施設や文化環境の整備	小学校・中学校・高等学校などの学校教育の推進
地域の資質を活かした産業のあるまち	産業の基盤となる工業団地、流通団地などの整備	雇用の安定対策の充実
発展する都市圏の中核となるまち	高速バスや新幹線などの長距離公共交通の利便性の向上	中心市街地(福山駅周辺)の活性化

市民満足度と重要度から見た位置付け

- ・ 「A：満足度が低く重要度が高い」「B：満足度も重要度も高い」「C：満足度も重要度も低い」「D：満足度が高く重要度は低い」の位置付けについて整理を行った結果は、次のとおり。



(注) 満足度や重要度の高低から見て、特に大きい又は小さい行政サービスなどについて名称を表示。

住みやすさに関する総合的な満足度

- ・ 満足とやや満足の合計 (44.5%) が、やや不満と不満の合計 (23.7%) を大きく上回る。

(4) 今後の重点的な取組(福山市の将来像, 重点的に行うべき取組)

- ・ 今後のまちづくりを行う上での将来像や考え方については、「安全・安心」が約4割で最も多く、次いで、「健康・福祉」(32.4%)、「活力・にぎわい」(28.1%)、「子育て・教育」(26.7%)、「自然・環境」(22.3%) などが多い。
- ・ 今後の福山市のまちづくりにおいて重点的に行うべき取組としては、「高齢者福祉の充実」が38.9%で最も多い。次いで、「学校教育」(32.7%)や「ごみの減量化・リサイクルの推進」(27.5%)、「保健・医療の充実」(26.4%)、「雇用の場の確保」(25.7%) などが多い。

(5) 家庭の情報化, 将来の不安について

家庭の情報化

- ・ 家庭で利用している情報通信機器は、「パソコン（インターネットに接続）」や「携帯電話・PHS（通話のみ）」で5割弱となっており、「携帯電話・PHS（インターネットに接続）」は3割を超える。
- ・ 家庭でのインターネットの利用状況については、「少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」と回答した人は約7割である。

将来の不安

- ・ 「とても不安である」と「やや不安である」の合計でおよそ8割に達する。
- ・ 不安の内容としては、半数が「年金などの国の社会保障制度」、「自分の健康や介護」や「家族の健康や介護」がおよそ3割である。ただし、各年代によって、それぞれ不安の内容が異なる。

(6) 地域の活動, 市民と行政の役割分担について

- ・ 回答者の65%が何らかの地域の活動に参加しており、中でも「自治会・町内会などの活動」が約5割で最も多い。
- ・ 市民参加のまちづくりを活発にする方法としては、「まちづくりに関する情報を市民に積極的に提供する」が約6割と多い。
- ・ 参加したいまちづくりの内容については、「高齢者・障害者の福祉」(28.4%)や「地域の安全や防災」(24.9%),「自然保護・環境問題」(24.7%),「スポーツ・レクリエーション」(21.0%)などで比較的多い。
- ・ まちづくりの参加の方法については、「まちづくりについての提案や意見を提出する」といった政策の企画段階を選択した人が36.8%で最も多く、次いで、「事業の実施（技術や特技の提供など）に参加する」(22.3%)が多い。

(7) 福山市が目指すべき将来像やまちづくりの在り方などに関する自由意見

- ・ 「道路の整備・充実」や「学校教育の向上」、「効率的な財政運営」、「駅前の整備、市街地の整備」、「河川などの自然環境、景観の保全」、「防犯対策の強化など安全なまちづくりの推進」、「高齢者福祉サービスや施設の充実」などの意見が多い。